

令和6年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 か所につき 1 枚)

会派名	葦真クラブ
出席者	宮川文憲・清水康雄・内藤正之・木内吉英・山本京子・石河一郎
事業名	諏訪市AIオンデマンド交通『チョイソコかりんちゃん』について
事業区分	①研究研修②調査

1. 葦崎市での課題と研修・調査の目的

葦崎市においても、高齢化の進行や地域交通の維持が課題となっており、本市では今年度よりAIオンデマンドバスの導入を予定しています。しかし、実際の運用にあたっては、利用者ニーズの把握や効率的な運行方法、財政負担など多くの検討事項が残されています。

そこで、先行してAIオンデマンド交通を導入している諏訪市の『チョイソコかりんちゃん』の取り組みを視察し、導入の経緯や運行上の工夫、利用者の反応、運営上の課題などを学び、本市での円滑な導入と持続可能な運営に活かすことを目的としました。

2. 実施概要

実施日時	令和6年11月12日（火） 10:00～15:00
視察先	諏訪市役所
担当部局	地域戦略・男女共同参画課地域戦略係
報告内容	1. 諏訪市の概要
	諏訪市は長野県の中中部、諏訪湖の東岸に位置し、1941年（昭和16年）8月10日に諏訪郡上諏訪町、四賀村、豊田村が合併して市制施行。1955年（昭和30年）4月1日に諏訪郡中洲村と湖南村が合併して現在の市域となっている。市内には諏訪大社や上諏訪温泉を有し、観光地としても知られている。また、精密機械工業をはじめとするものづくり産業が盛んであり、「東洋のスイス」と称されてきた歴史を持つ。 市の面積は109.17平方キロメートルで、長野県の面積の約1.4%を占めている。中心部には諏訪湖が広がり、周囲をハケ岳や霧ヶ峰などの山々に囲まれた自然豊かな地形である。 令和6年2月1日現在の人口は47,899名で、世帯数は21,026戸となっている。65歳以上の人口は約14,900名で、高齢化率は30%を超えており、今後さらなる高齢化とそれに伴う公共交通の利便性確保が重要な課題となっている。

2・運営概要

諏訪市では、公共交通の利便性向上と高齢者・交通弱者の移動手段確保を目的として、令和4年10月よりAIオンデマンド交通『チョイソコかりんちゃん』の運行を開始している。

『チョイソコかりんちゃん』は、AIによる効率的な配車システムを導入し、利用者の予約に応じた柔軟に運行ルートを決める仕組みとなっている。利用には会員登録が必要で、市内全域の停留所間を乗り合い形式で運行している。

運賃は1乗車200円に設定され、特に高齢者や免許返納者の利用が多い。予約は電話および専用アプリから可能で、利用しやすい環境が整備されている。

運営は、市が主体となり民間事業者に委託する形で実施されており、導入当初は社会実験の位置づけで開始されたが、利用者数の増加や利便性の評価を受け、令和5年度以降も継続運行が決定している。

運行開始から1年余りで、地域住民の足として定着しつつあり、今後はさらなる利用促進や財政負担のバランスを見ながら持続可能な運営が求められている。

3. 考察（これらの取り組みを韮崎市にどう活かせるか）

諏訪市における『チョイソコかりんちゃん』の運営について、担当者より導入の経緯や運行形態、利用促進策、今後の課題等について説明を受けた後、午後には実際に自らアプリを使用し、乗車体験を行った。

特に印象的だったのは、半年以上かけた周知活動の徹底である。委託業者と連携しながら、公民館での説明会をはじめ、駅前でのチラシ配布や住民一人ひとりへの丁寧な声かけを行い、住民の理解と利用促進に努めていたことが、運行開始後のスムーズな定着に繋がっていると感じた。

また、実際にアプリを使って予約・乗車した際、配車は非常にスムーズであり、AIが効率よく運行ルートを調整している様子を実感できた。利用者の希望に柔軟に対応しながら効率化が図られており、AIの活用による地域交通の可能性を強く感じた。

さらに、諏訪市では3台体制で広域をカバーしており、市内の観光地にもバス停が設置されている点が印象的であった。観光客の移動手段としても利用できる仕組みは、地域の観光振興と公共交通を結び付ける好事例であり、本市においても今後検討すべき視点だと考えた。

本市では1台体制、限定的なエリアでの運行開始を予定しているが、諏訪市のように丁寧な周知活動や、AI技術を最大限活用した効率的な運行、さらには観光利用の視点など、先進事例を参考にしながら、利用者目線の利便性向上と持続可能な運営体制の構築を目指したい。

今後も引き続き、他自治体の取り組みを調査・研究し、本市の地域交通施策に反映させ、誰もが安心して移動できる環境づくりに努めていきたい。



※写真等がある場合は添付すること